

マダガスカルの日本語教育について

ラハリミアダナ タティアナ

Institute Superior of Technology 大学

1-マダガスカル共和国の概要

マダガスカルはアフリカ大陸の東にある島国であり、世界で4番目に大きな島である。面積は日本のおよそ1.6倍ある。首都はアンタナナリボであり、人口は約3,000万人である。国内には18の部族が存在しており、多様な文化が見られる。1896年から1960年までフランスの植民地であったので公用語といえばマダガスカル語とフランス語である。宗教分布は、キリスト教が約8割5分、イスラム教が3分、伝統的なマダガスカル宗教が約5分、無宗教が約7分を占めます。

外務省（2023年10月）の統計によると、マダガスカル共和国に在留する日本人数は209名である。日本大使館は首都アンタナナリボにあります。

2-マダガスカルにおける日本語教育の現状

国際交流基金の調査によると、マダガスカルはアフリカの中で日本語教育機関の数が一番多いの1つである。マダガスカルの日本語教育は停滞しており、インフラや教師不足といった課題が残っているものの、中等教育では学校数が増加している。さらに、安定した収入を得ることに依然として困難を抱えており、学習者に関しては、マダガスカルの人々は日本の文化や言語に強い関心を示しており、日本語イベントの参加者数にもそれが反映されている。しかし、日本語を学ぶための明確な道筋を見つけることが課題となっている。

3-日本語教育を始めるための取り組み

2021年以降、筆者はマダガスカルの日本語教育に貢献しはじめた。Institute Superior of Technology という大学で日本語を教えるだけでなく日本の文化も分け合うことを通じて、4つのクラスを担当し、教科書やYouTube動画を教材として活用してきた。また、マダガスカル日本語協会に参加したことで、他の教師たちとネットワークを築き、日本語スピーチ大会や日本語能力試験の運営といった日本語教育活動の幅を広げている。

4-今後の展望

今後の展望として、第一にマダガスカルにおける日本語教育のための教員養成と人材を強化することが優先される。第二に、効果的な学習を支援するための教材提供とインフラ整備が大事である。第三に、安定した収入を確保するため解決策を見つけることです。最後に、学習者が日本語学習を続け、そのスキルを活かせるための明確な道筋を作ることが重要である。これらの課題に取り組むことで、マダガスカルの日本語教育は持続的に発展していくのである。